

第2回定例岡山県教育委員会議事録

- 1 日 時 令和6年4月19日(金)
開会13時30分 閉会14時35分
- 2 場 所 教育委員室
- 3 出席者
- | | |
|--------------|-------|
| 教育長 | 中村 正芳 |
| 委員(教育長職務代理者) | 田野 美佐 |
| 委員 | 松田 欣也 |
| 委員 | 上地 玲子 |
| 委員 | 服部 俊也 |
-
- | | |
|---------|-------------|
| 教育次長 | 國重 良樹 |
| 教育次長 | 田中 秀和 |
| 学校教育推進監 | 室 貴由輝 |
| 教育政策課 | 課長 小林 伸明 |
| | 副課長 中江 岳 |
| | 総括副参事 滝澤 容彦 |
| 教職員課 | 課長 西林 哲郎 |
| 高校教育課 | 課長 鶴海 尚也 |
| 特別支援教育課 | 課長 江草 大作 |
- 4 傍聴の状況 1名
- 5 附議事項
(1) 公立学校教職員の懲戒処分について
- 6 報告事項
(1) 令和6年3月新規高等学校卒業者の就職状況等について
(2) 令和6年3月新規特別支援学校高等部卒業者の就職状況等について
- 7 その他

8 議事の概要

開会

非公開案件の採決

(教育長)

本日の議題の審議に入る前に、議題の公開の可否について決定したい。本日の議題のうち、附議事項（１）は人事案件があることから、教育委員会会議規則第12条に基づき、非公開とするよう発議する。

委員から、議題を非公開とする発議はないか。

(委員全員)

(特になし)

(教育長)

この発議は、討論を行わずにその可否を決定することとなっているので、直ちに採決に入る。附議事項（１）は、非公開とすることに賛成の委員は挙手願う。

(委員全員)

挙手

(教育長)

全会一致により、本案件は非公開とすることに決した。

報告事項（１）令和6年3月新規高等学校卒業者の就職状況等について

- ・ 高校教育課長から資料により一括説明

(委員)

有効求人倍率が過去最高の数値であるのに、62名の生徒の就職が決まらなかったのはなぜか。

(高校教育課長)

未決定となった理由の1つとして、就職活動の遅れがある。

就職活動が遅れた理由は様々あるが、不登校の状態で欠席が多い生徒や成績不振の生徒の活動開始が遅れたこと、元々進学希望であったが途中から就職希望に変更したこと等が挙げられる。

(委員)

今年就職が決まらなかった生徒に対しても個別の状況をよく把握していただいた上でしっかりとした対応が取れるようにしていただきたい。

また、去年も同じ発言をさせていただいたが、高校からの新規卒業者は、1人1社しか受験できないということを企業が知らないケースが昔はあったが、今現在はどうな

のか。

(高校教育課長)

問題事象として捉えられるようなことは起きていない。

(委員)

例えば、1人採用予定の所へ3人面接に応募すると2名が落ちてしまう。その2名は2巡目の応募に回ってしまい、行けるとところが非常に限られてしまう。

自らが希望していない会社に入らざるを得ない問題は解消されているのか。

(高校教育課長)

解消はされていない。

ただ企業の問題ではなく、高校生が希望する就職先は、ネームバリューがあり、事業規模が大きく、待遇面などの良い企業へ集中する傾向にある。

(委員)

就職の問題の次に離職の問題がある。

学生と企業がもっとコミュニケーションを図ってもらいたい。2巡目・3巡目になって自分が希望していない企業に就職し、離職してしまうことを防がないといけない。この辺りをしっかり企業と連携して、質の高い就職活動にしていきたい。

(高校教育課長)

1回目の試験、2回目の試験で就職が決まる割合について、把握はしていないが、こうした状況を労働局や知事部局と共有しながら、しっかり企業側にも高校生の就職活動を取り巻く状況が伝わるように連携してまいりたい。

(委員)

教育側から産業界に対して、きちっとした要望をするためにもしっかり現状把握をしていただきたい。

(委員)

卒業後に離職防止で教員が就職先を訪問し、指導するフォローアップは何年くらいするのか。

(高校教育課長)

基本的に継続的に何年と決まっているわけではなく、前年度に採用していただいた企業にできる限り訪問していこうという取組になっている。

訪問の趣旨としては、仕事の様子等について話をして、不安になっている卒業生のサポートをするといった離職防止の面や教員自身が会社を訪問し、実際に勤めている卒業生と話をすることで会社の雰囲気等を把握でき、次の就職指導に生かしていくといったことである。

全ての企業を回れるわけではないが、少しでも企業の様子などを把握しようと取組を続けている。

(委員)

就職希望者が年々減少しており、今後もこの傾向は続くと思うが、今後の動向はどうか。

(高校教育課長)

母数となる高校生の人数自体が減少していくため、就職を希望する生徒も減少していく。

近年で言うと、進学に対する国の給付型奨学金の影響からか就職より進学を選ぶ生徒が多くなっているが、これから急激に就職希望が減少していくことはないと思っている。

(委員)

就職希望が減ることによって、就職活動の進め方を変えていくことは考えられないか。

(高校教育課長)

高校生の新規卒業者の就職のあり方については全国統一で行われている。ハローワークへの受付が6月1日以降、就職試験が始まるのが9月16日など全国で統一されている。

都道府県ごとに変更できることとしては、1人1社制がある。本県は、11月1日からは複数応募できる制度であるが、全国でばらつきがある。

毎年度3月に産業界や関係機関と一緒に協議をし、検討しており、今年度についても変更はない。

当初から複数応募を可能にしている県の情報を把握しているが、複数出願をしている生徒はほとんどいない状況である。

(委員)

岡山の独自の取組はあるのか。

(高校教育課長)

就職活動の制度自体での工夫とならないが、岡山県が力を入れている独自の取組として、在学中に地元の企業を知ろうということで高校3年間の間で企業訪問やインターシップを、普通科を含む全ての生徒が行うという目標を設定している。

地元の色々な会社を知ることが、適正な就職に繋がると考えている。

報告事項(2) 令和6年3月新規特別支援学校高等部卒業者の就職状況等について

- ・特別支援教育課長から資料により一括説明

(委員)

高等学校においては、卒業後のフォローアップがあるようだが、特別支援学校のフォローアップはどうなっているのか。

(特別支援教育課長)

学校では、3年間はしっかり状況を確認することとしている。卒業した生徒の次の就職先は、様々な支援センターがあり、そちらにお願いするが、状況をしっかり把握した上で、場合によっては相談にのるなどの対応を行っている。毎年、定着率を計算しており、令和4年度末に就職した生徒のうち、1年間続いた方は94.4%となっている。例年より少し高い定着率となっている。残った6名の方が離職しているが、仕事が合わなかったための離職で、違う道に進んだり、時間を空けず再就職したりするなどしている状況である。

(委員)

特別支援学校の生徒のためのジョブフェアは、近年聞いていなかったが、長年行っているのか。

(特別支援教育課長)

毎年行っている。以前は大きなイベントのような形で実施していたが、現在は学校単位ごとで実施している。一般的なジョブフェアと比べると面接会的な形になる場合もある。生徒の状況によっては、仕事の紹介という形で開催しているものもある。

(委員)

技能検定とはどのようなものか。以前からあったか。

(特別支援教育課長)

長年行っている取組である。技能検定は清掃や接客サービスなどがある。企業の方にも参加いただき、清掃や接客サービスの正しいやり方を教えてもらっている。大きな全国組織として行っているものではなく、県教委の取組として、各校から担当者や企業の方に参加いただき、清掃のやり方等をルール化して、日頃の活動の中で着実に積み上げていき、高い級の生徒だけ年1回集まって検定といった形で実施している。

(委員)

A型事業所との関係・連携について聞きたい。

障害福祉の国の方針が変更になり、事業所の運営が厳しくなるのではないかと思う。

今後の支援学校とA型事業所との連携や生徒の就労支援や就職の仕方について変化はあるのか。

(特別支援教育課長)

今年度の4月から新たな制度が適用になっているが、昨年度からこのような動きになることは分かっていたため、今回の調査結果の中でも、A型事業所を選びにくくなっているという状況がでている。

学校でも、生徒によっては、将来どうなるか分からないA型を目指すより、頑張っって一般を目指そうとしたり、一般を目指す前の就労移行支援事業所を利用したりしながら、さらなるスキルアップを目指していく動きをしている。

ただ現状では、制度として存在しているので、まずはA型事業所を受け皿とし、ステ

ップアップをしていこうという生徒もいる。

以下、非公開のため省略

閉会